

### 本格的な AI時代が到来、 交錯する 期待と不安

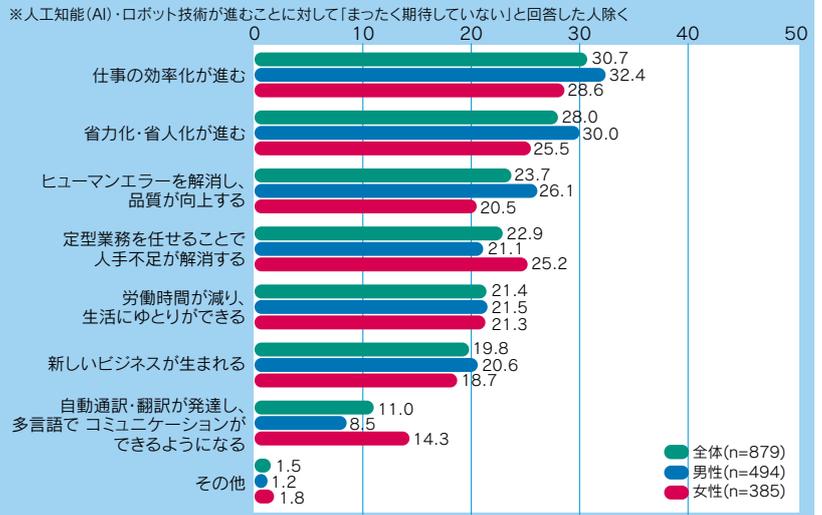
人工知能 (AI) ・ ロボット技術の進展は、日常生活だけでなく、さまざまなビジネス現場においても変革をもたらそうとしている。日本能率協会 (JMA) の意識調査では、AI ・ ロボット技術が進むことを期待している人は約半数、不安に感じている人も過半数いると報告されている。「期待すること」としては、仕事面では「効率化」「省力化・省人化」、生活面では「自動運転」「ロボット家電」が上位を占めた。

一方、不安としては、仕事面では「システムエラーによる事故・混乱」「ロボットに仕事を奪われる」、生活面では「人間が退化する」「失業者が増え、経済が悪化する」が多かった。「不安」に感じる割合は、女性のほうが大きく、たとえば「失業者が増え、経済が悪化する」と懸念するのは、男性の3割に対し、女性は4割近くとなっている。「人との触れ合いが減る」ことを不安に思う割合も女性のほうが高かった。

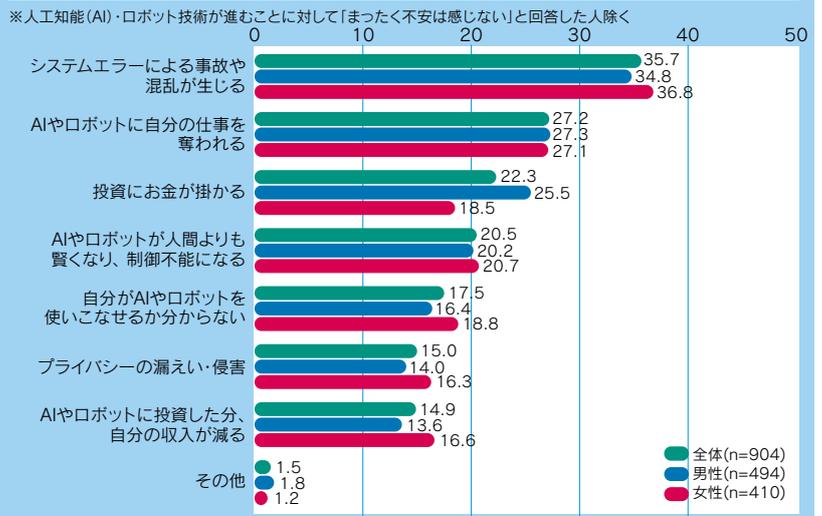
AI時代に求められるビジネススキル・能力は、男女とも「コミュニケーション力」がトップで、「ITスキル」を上回った。特に女性では約半数にのぼっている。AI時代だからこそ、より人間的なスキルに磨きをかける必要があると考える人が多いのかもしれない。

出所: 一般社団法人日本能率協会『第8回「ビジネスパーソン1000人調査」[AI・ロボット技術編]』(2018年1月)

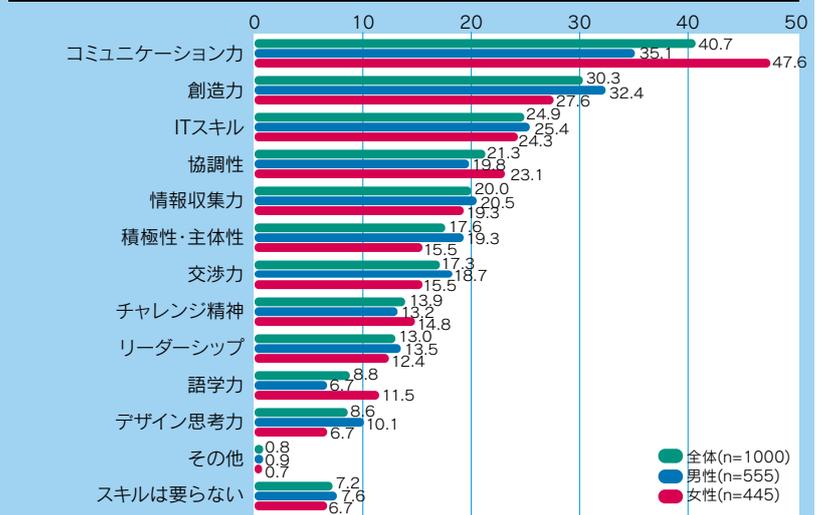
[1] 人工知能(AI)・ロボット技術が進むことに対して、仕事に関して、具体的に期待していること(複数回答)



[2] 人工知能(AI)・ロボット技術が進むことに対して、仕事に関して、具体的に不安を感じていること(複数回答)



[3] AI時代に、ビジネスパーソンに求められるスキル・能力は何だと思いますか(複数回答)



## Managementのmanに学ぶ

新入社員が誕生する年度はじめてであるが、新しくマネジャーとなった方もまた多くいることだろう。そこで今回は初心にかえって、「マネジメント」の基本をおさらいしたい。

一般的には、マネジメントの立場にある人を「マネジャー」と呼び、「管理者」と訳される場合が多い。

“manage”という言葉の辞書で調べると、①(会社などを)経営[管理]する ②(機械などを)うまく取り扱う、操る ③(馬を)訓練する ④～を何とかして成し遂げる、といった訳が出てくる。manageのmanとは、「手」を意味し、手を使って馬を訓練したり調教したりすることが、その語源ということで、「鞭」ではなく「手」だということに、manageを考えるポイントがある。

I can manage by myself.(自分で何とかできる)やmanage a smile(やっとなのことで笑顔を見せる)という使い方からも、manageの意味が、ことさらに「管理すること」ではないとわかる。

前述した通り、日本語では、managerを管理者と訳すため、管理することが役割と勘違いされていないだろうか。たしかに管理者という訳でもよかった時代も過去にはあったが、それは、組織も事業もどんどん拡大し、管理の側面を強くしても順調さが目立った高度成長期などの時代のことで、いまの状況とは異なる。

イノベーションが叫ばれる昨今、ダイバーシティ&インクルージョン、開かれたコミュニケーション、社内外とのネットワークやコラボレーションといった行動が重視されるなか、マネジャーは管理を極力減らし、手を差し伸べ、何とか成し遂げるように協働することが、これからのマネジャーに求められる姿である。

変化が激しく、誰もがわずかな先さえ見えない時代だからこそ、「どうにかこうにかして、何とかしていく」という真のmanagementが必要だ。

管理や管理者と訳すことをやめて、manage(マネージ)、management(マネジメント)とそのまま理解するほうが、誤解は生まれない。 [編集室 文斌]